学校法人日本赤十字学園

［法人本部事務局］　〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル西館6階

TEL.03-5472-2836　FAX.03-5472-2837　赤十字学園 検索

学校法人
日本赤十字学園
Japanese Red Cross Academy

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ANNUAL REPORT

平成28年度 事業活動のご報告

ご挨拶／理事長メッセージ

「魅力ある大学、選ばれる大学」として一層の飛躍を

学校法人日本赤十字学園は、日本赤十字社の看護師養成の高等教育部門として、昭和29年の開設以来、「人道の理念を基調とする教育」との建学の精神のもと、赤十字の看護師の養成にあたり重要な役割を担い、日本の医療を支える多くの人材を輩出してきました。

しかしながら、18歳人口の減少、大学全入時代の到来等により、私立大学の約半数が厳しい経営を迫られる状況にあるとともに、看護系大学・学部の新設が相次ぎ、看護師を目指す学生の獲得競争は一層激しさを増しております。併せて、単科大学としての優秀な教員の確保についても学園全体で取り組む必要のある課題として認識しているところであります。

そのため、当学園では、「魅力ある大学、選ばれる大学」として一層の飛躍を図るため、平成26年度から平成30年度までの5ヵ年の「第二次日本赤十字学園中期計画」を策定し、学生、保護者、教員から信頼を得て選ばれる大学の構築に邁進しております。

特に、平成28年度は、高度教育機関としての博士後期課程の充実を図るため、北海道、秋田、豊田、広島及び九州国際の5大学連携による「大学院看護学研究科共同看護学専攻（後期博士課程）」を開設し、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材を育成できる教育環境が整いました。

これらの環境のもと、平成29年度においても各大学それぞれの特色を最大限に活用しながら、教育・研究のより一層の充実を目指す所存でございますので、今後も一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人日本赤十字学園
理事長 大塚義治

— 建学の精神 —

「人間のいのちと健康、尊厳を守るために力を尽くす人材を育てる」

現実を踏まえて理想を忘れず、
今、手元にある苦痛と死を一つでも
取り除く努力によって理想に近づく。
これが赤十字の「人道」です。
赤十字の「人道」は、
医療や福祉の分野における原点と言えます。
学校法人日本赤十字学園は、
赤十字の人道の理念に基づき、
人間のいのちと健康、
尊厳を守る担い手として地域で、
世界で活躍できる人材を育成します。

学校法人日本赤十字学園

CONTENTS

学校法人日本赤十字学園 事業計画の基本方針 …… 02
施設の概要 …… 03

学園全体の動向 …… 04

各大学・短期大学の動向
- 日本赤十字北海道看護大学 …… 06
- 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学 …… 08
- 日本赤十字看護大学 …… 10
- 日本赤十字豊田看護大学 …… 12
- 日本赤十字広島看護大学 …… 14
- 日本赤十字九州国際看護大学 …… 16

事業の概要
- 学生の動向 …… 18
- 教育活動の動向 …… 23
- 研究活動の動向 …… 24
- 奨学金の給付・貸与状況 …… 26
- 日本赤十字国際人道研究センターの動向 …… 28
- 地域貢献活動 …… 30

財務の概要
- 資金収支決算 …… 32
- 事業活動収支決算 …… 34
- 貸借対照表 …… 36

法人の概要
- 沿革 …… 38
- 組織図/教職員の概要 …… 39
- 役員・評議員一覧 理事会・常務理事会・評議員会の開催状況 …… 40
- 各大学・短期大学の施設概要 …… 41

学校法人日本赤十字学園

事業計画の基本方針

第二次日本赤十字学園中期計画（平成26年度～平成30年度）

将来にわたる大学の健全な運営、適正な事業の遂行は、当学園が理想とする教育を実現するための基盤であり、求められる社会的使命を達成するためには、各大学の教育、研究、社会連携・貢献を担う教学部門と組織・運営体制並びに財務、施設設備・整備計画を担う事務部門が問題意識を共有し、共に連携して業務に当たることが重要であります。

当学園の第一次中期計画（平成21年度～平成25年度）では、平成24年度に日本赤十字秋田看護大学が完成年度を迎えたことから、各大学の四大化が完了し、すべての大学に大学院修士課程が設置されるなど、大学教育の基盤が構築されました。

第二次中期計画（平成26年度～平成30年度）においては、各大学の教学機能、事務機能の向上により、内実の伴った大学組織を構築するとともに、質の高い教育、研究活動に不可欠な安定的な経営基盤の確立を目指します。

また、学長のリーダーシップの下、自ら主体的に学ぶ学修意欲旺盛な学生を育み、学修成果をあげることで大学の教育の質の確保を図ります。また一方で地域との連携強化を図り、地域で必要とされ、地域再生の核となる大学を目指します。

以上を踏まえ、当学園第二次中期計画では、目指すべき大学の方向性として、次の5つのビジョン(目指すべき大学のイメージ)を掲げ、事業への取り組みの指針としています。

1. 質の高い教育を実践する大学
2. 社会の変化に対応できる大学
3. 6大学の連携の強みを生かした大学
4. 地域に貢献する開かれた大学
5. 健全な経営基盤に立つ成長する大学

施設の概要（平成29年度）

秋田県 秋田市　日本赤十字 秋田看護大学・短期大学

〈看護大学〉
【設置学部等】平成21年開学
•看護学部／大学院

〈短期大学〉
【設置学部等】平成8年開学
•介護福祉学科

詳しくは P.08 ページへ

北海道 北見市　日本赤十字 北海道看護大学

【設置学部等】平成11年開学
•看護学部／大学院

詳しくは P.06 ページへ

広島県 廿日市市　日本赤十字 広島看護大学

【設置学部等】平成12年開学
•看護学部／大学院

詳しくは P.14 ページへ

東京都 渋谷区　日本赤十字 看護大学

【設置学部等】昭和61年開学
•看護学部／大学院

詳しくは P.10 ページへ

福岡県 宗像市　日本赤十字 九州国際看護大学

【設置学部等】平成13年開学
•看護学部／大学院

詳しくは P.16 ページへ

愛知県 豊田市　日本赤十字 豊田看護大学

【設置学部等】平成16年開学
•看護学部／大学院

詳しくは P.12 ページへ

学園全体の動向

平成28年度 日本赤十字学園全体の動向

1 赤十字の特色ある教育の実施

赤十字の看護大学として赤十字概論や国際人道法等、赤十字活動に関連する分野の教育の実施や、災害救護訓練、ボランティア活動等を通じて、災害時における救護活動、看護・介護活動に必要な能力を養う教育を進めるとともに、国内外で活躍する人々の講演や交流、海外の大学等との交流を促進し、国際的感覚を身につけた豊かな人間性を養う教育を進めました。

また、日赤各県支部・施設等が主催する災害救護訓練や献血、赤十字会員募集等に積極的に参加するなど、赤十字の一員として主体的な関与を推進しました。

2 平成28年熊本地震災害に対する活動

平成28年4月、2度にわたり最大震度7を観測した平成28年熊本地震災害。各大学では、学生が自主的に募金活動の実施や仮設団地内に移動図書館を開設するなど、被災地支援のための活動を行いました。また、教職員も、日本赤十字社や災害看護関連団体の救護班等の一員として、現地調査や被災者の支援活動、被災した介護施設の支援活動に携わりました。

移動図書館で子どもと一緒に本を読む日赤九州国際看護大の学生

3 学部・学科の教育課程の充実・改善

学部・学科教育では、学生の能力に応じたカリキュラム編成や実習体制の見直しを進めました。

併せて、シラバスに学習到達目標、学習課題等を明示することにより、学生が主体的に学ぶ力を引き出す取り組みや、全大学が導入するGPA（グレート・ポイント・アベレージ）により、適正な成績評価を実施するなど、各大学は様々な工夫を凝らした学部・学科教育を推進しました。

4 「大学院看護学研究科共同看護学専攻（後期3年博士課程）」の開設

看護教育・研究や看護実践の発展に寄与できる人材の育成を目指し、当学園の北海道、秋田、豊田、広島、九州国際の5大学で構成する「大学院看護学研究科共同看護学専攻（後期3年博士課程）」を、平成28年4月1日に開設しました。

共同看護学専攻は、夜間講義や履修期間（3年）の延長制度等、働きながら学べることが特色で、5大学をテレビ会議システムで結び、遠隔授業をリアルタイムで行っています。

遠隔授業で各大学がリアルタイムに繋がる

5 学生支援策の強化

学納金の経済的負担により修学に支障が出ないよう、日本赤十字社の支部、病院と連携を取り、奨学金募集枠の充実・拡大に理解と協力を求め、奨学金制度の拡充を図るとともに、学生や保護者へ制度の利用を効果的に周知しました。

6 研究活動の充実に向けた取組

科研費、民間資金の募集情報の周知に努め、資金の獲得に向けた教員への応募を奨励しました。併せて、当学園研究助成金への積極的な応募を勧奨しました。私立大学等大学教育改革総合支援事業については、タイプ1・2までを視野に応募を積極的に行い、地域との包括連携協定に基づく活動の充実などを図りました。

7 学生確保のための取組

日赤医学会総会で来場者に向けた募集活動

少子化、看護系大学・学部の相次ぐ新設により、学生の獲得競争は一層激化しています。

意欲のある優秀な学生や保護者に選ばれる、魅力ある「赤十字の看護大学」作りや特色のPRは、大学教育の質向上のためにも重要な課題となっています。

各大学では、高校教員対象の説明会、高校訪問や出張（出前）講義の積極的な実施等、様々な工夫により学生の確保に努めました。また、オープンキャンパスや学園祭を通じた情報提供に加えて、日常の大学の動きを伝えるために、ホームページをはじめ、SNS等の若者に身近な情報ツールの活用を進めました。

その他、日本赤十字社の関連学会（医学会総会、看護学会等）へのブース出展や資料展示など、学園情報の提供により学生の確保に向けた取り組みを行いました。

8 地元自治体との連携・協力の促進

地元自治体との連携、協力により、大学の教育研究機能を活かした少子高齢化、地域医療、予防医学等の地域の課題解決に貢献するとともに、地域住民や医療・福祉関係者等を対象にした公開講座やセミナー、シンポジウム、講演会などを積極的に開催し、地域社会における生涯学習の場を提供しました。

9 受配者指定寄付金を活用した災害備蓄品・看護実習用機材の整備

株式会社日赤振興会様からの受配者指定寄付金を活用し、各大学の災害対策強化及び教育環境向上のために、災害用備蓄品、看護実習用人形等を整備しました。

避難所で役立つ「段ボールベット」

10 「日本赤十字看護大学さいたま看護学部（仮称）」設置に向けた準備

日本赤十字社からの要請により、平成27年度に設置準備室を開設した「日本赤十字看護大学さいたま看護学部（仮称）」については、平成31年4月の開学（予定）に向け、基本計画の策定、設計・施工業者の選定、教育課程・教員組織・学生の募集に関すること等、具体的な検討・作業を集中して進めました。

赤十字のhumanityと看護の知を具現化するために

日本赤十字北海道看護大学

［設置学部等］
看護学部／大学院

［住　所］
北海道北見市曙町664-1

［電　話］
0157-66-3311

学長
河口てる子

本学は、世界自然遺産の知床半島が位置する北海道オホーツク圏の中核都市である北見市に、赤十字の2番目の看護大学として平成11年に設立されました。

humanity（人道）を基本理念とし、赤十字看護の長い歴史から得た「実践の知」を具現化すべく、教育環境を整え、大学院を含めた教育を実施しております。humanityとは、人々の命や尊厳を大切にすることですが、それは、その人の生きてきた歴史や大切にしていること、信念、生活習慣を私たち看護師も大切にするということです。

東日本大震災では、この理念の下に赤十字の救護班がいち早く診療・保健活動を行い、看護大学の教職員、学生、そして多くの卒業生も参加し、現在も活動を続けております。

赤十字の看護大学は全国に6校ありますが、各大学が持つ「叡智」と「強み」は、北海道に10、全国に92の病院を有する日本赤十字社との連携によりさらに増強し、日本最大の看護教育組織として、その強みを最大限に生かした教育施設・設備、人的環境を提供しております。

■遠隔教育システムを導入

本学（大学院）では、遠隔授業により、赤十字の6大学のどこにいても授業が受けられるようにしています。あわせて、札幌サテライトキャンパスや自宅、勤務先からでもPCやタブレット端末等を利用して遠隔個別指導を受けることができ、移動にかかる身体的・経済的負担を少なくしています。

今後についても、学び方の多様化に対応できるようネットワークシステムの充実に取り組んでいきます。

遠隔教育システムを使用した授業

■日本赤十字看護学会学術集会の開催

7月2・3日に第17回日本赤十字看護学会学術集会を開催し、約300人が参加しました。テーマは「看護の開拓魂」。看護の開拓者である赤十字の一員として、これからの社会へ何を発信し、そしてどのような力を発揮していくことが必要なのか等の討議が活発に繰り広げられました。

講演に耳を傾ける参加者

■北見赤十字病院・院長による講演会の開催

11月22日、北見赤十字病院の吉田茂夫院長による講演会「オホーツク医療圏の現在、そして未来」を開催しました。地域人口や高齢化の推移、高齢化の進展に伴う医療の変化などについての説明や、オホーツク圏の中核病院である同院に何が期待され、どのように改革していくのかについてお話し頂きました。

講演する北見赤十字病院 吉田院長

■厳冬期避難所展開・宿泊演習2017を実施

平成29年1月14日から15日にかけて、「厳冬期避難所展開・宿泊演習2017」を行いました。本学災害対策教育センターが主催し、道内外の赤十字職員をはじめ、国・道・市町村の防災関係担当者130人が参加しました。今回の演習は、「積雪寒冷地の厳冬期における完全停電」を想定した、過酷な条件での演習となりました。平成28年度は道内外での災害が多かったこともあり、各メディアを通じて本学の活動が紹介されました。

段ボールベッドの組立実習

■災害対策教育センター一周年記念講演会を開催

センターの設立一周年記念として、7月15日に東北大学病院の石井正教授をお招きして、「石巻医療圏における東日本大震災への対応と次への取り組み」と題し、講演会を開催しました。一般市民の皆様をはじめ、学生ならびに教職員あわせて約200人が参加し、講演に耳を傾けました。講演の最後には、日本赤十字社の災害時での活動は抜きんでていることと、日本赤十字社と行政などその他の組織との協力が大切であるとお話しされました。

■平成28年熊本地震義援金活動の実施

平成28年4月に発災した熊本地震に対し、学生ボランティア部（青少年赤十字奉仕団）、本学災害beatS研究会を中心とするボランティアと教職員によって、北見市内で義援金募金活動を実施しました。

延べ100人が参加し、北見市ならびに近郊の皆様から総計1,554,843円の義援金のご協力を頂きました。

活動報告会の様子

■北見市健康まつりへの参加

10月2日に開催された「北見市健康まつり」に本学の学生が参加しました。本学のブースでは、心臓や骨などの人体モデルに触れる体験や聴診器で心臓の音を聴いたり、自動血圧計による血圧測定などを行ったほか、看護師の仕事を手作りの絵本にして説明するコーナーでは、子ども達がとても興味深く聞いていました。お年寄りから子どもまで285人の来場者があり、多くの人に本学や看護について知っていただくよい機会となりました。

「からだのしくみはおもしろい」をテーマに人体モデルに触れる体験

「生きる」を支える人になる

日本赤十字秋田看護大学
日本赤十字秋田短期大学

[設置学部等]
(大　学)看護学部／大学院　(短期大学)介護福祉学科

[住　所]
秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3

[電　話]
018-829-4000

学長
安藤 広子

本学は、明治29年の日赤秋田県支部の救護看護婦養成に始まる120余年の歴史をもち、看護師最高の栄誉とされるフローレンス・ナイチンゲール記章の受章者3人のほか、国の内外で活躍する多くの優秀な看護師を輩出してきました。また、時代とともに変化していく看護教育へのニーズに柔軟に応えるべく、専門学校から短期大学、大学へと改組転換し、平成23年度に大学院研究科修士課程、平成28年度に博士課程を開設するに至りました。

短期大学は、平成8年に看護学科と日本赤十字学園で唯一の介護福祉学科として開学し、これまで983人の介護福祉士を輩出し、高齢化社会の重要な担い手として活躍しています。介護福祉士は、労働環境等の問題のほか、その教育についても多方面から検討が行われておりますが、介護福祉に対する社会のニーズに高度な教育をもって応えるべく、高等教育機関としての更なる充実した教育内容の構築を目指しています。

大学・短大とも、災害救護訓練等を通じた赤十字精神の涵養、災害時の支援活動、ボランティア活動等の体験学習に取り組んでいます。

■災害救護訓練

本学の災害救護訓練は、平成20年度「質の高い大学教育の推進プログラム（教育GP）」として文部科学省から認定を受けた日赤秋田短期大学の教育取り組み「国際人道法の理念を行動化する教育の推進」事業の一環として実施しています。災害救護活動の推進者として基礎的能力を培うことを目的に、救護所の設営、避難者体験、炊き出し訓練など多彩な内容で実施しています。

特殊メークアップを施した模擬患者に対する救護活動

■スタディーツアーの実施

8月20日～28日、日本広島看護大学と共催で「赤十字スタディーツアー　～アンリー・デュナンと国際赤十字を学ぶ旅～」を実施し、学生5人がイタリア・ソルフェリーノ、スイス・ジュネーヴのICRC（赤十字国際委員会）等を訪問しました。

また、平成29年2月26日～3月6日には、日赤北海道看護大学と共催で「ロサンゼルス看護・英語研修スタディーツアー」を実施。学生6人が米国赤十字社ロサンゼルス支部や米国赤十字血液センター等を訪問しました。

米国赤十字社ロサンゼルス支部前にて

2016防災キャンプフェス会場

■「2016 AKITA防災キャンプフェス」の開催

9月24日・25日、防災教育とアウトドア術を楽しみながら、命をつなぐ知恵を身につけることを目的に、「2016 AKITA防災キャンプフェス」が開催されました。

この企画は、秋田魁新報社と本学や県内の赤十字施設等により構成される実行委員会が主催。市民約4,500人が来場し、遊びの要素もたくさん詰まった「防災キャンプ」を体験していただくことができました。なお、この取り組みは、日本赤十字社が主催する「第9回もっとクロス！大賞」において、県内企業やメディアと協力し、効果的にPRした点が高く評価され、グランプリを受賞しました。

■「赤十字みんなの防災キャンプ」の実施

近隣住民や行政、民間企業と連携した防災拠点作りや、地域防災力の向上に学生が寄与することを目的とした取り組みとして、「赤十字みんなの防災キャンプ」を6月、7月、平成29年2月に実施しました。参加者はテントの設営やロープワーク等、防災に役立つ技術を楽しく学びました。

参加した子どもたちも興味津々

■熊本地震災害募金活動を実施

赤十字防災ボランティアステーションの学生が「被災地の人たちのために何かしたい」と立ち上がり、他大学の学生や市民と協力し、本学内外で募金活動を行いました。皆様から寄せられた義援金は、日赤秋田県支部を通じて全額を被災地に送りました。

義援金への協力を呼びかける学生

■赤十字国際人道法教育フォーラムの開催

4月28日、第8回赤十字国際人道法教育フォーラム「病院の災害対策と災害時の地域連携～石巻赤十字病院の事例から～」（講師：石巻赤十字病院看護師長・澁谷多佳子氏）を開催し、学生と地域住民363人が参加しました。

1890年から受け継ぐ看護の知と技　今、未来へ

日本赤十字看護大学

［設置学部等］
看護学部／大学院

［住　所］
東京都渋谷区広尾4-1-3

［電　話］
03-3409-0875

学長
高田 早苗

日本赤十字看護大学は昨年、大学設置30周年を迎えました。始まりは、日本赤十字社の救護員養成が開始された1890年にあり、本学の建学の精神は、赤十字の第一原理である人道ヒューマニティです。一人ひとりの尊厳を守り、人びとが有する平和と健康に生きる権利を、看護を通し広く社会に、さらには国際的な分野においても実現するために、看護学に関する専門分野の教育、研究を行っています。

災害の多発を受けて、大学院における災害看護学分野を強化してきました。文部科学省リーディングプログラム助成のもと、国公私立5大学による5年一貫制博士課程の共同災害看護学専攻を設置し、赤十字国際救援経験をもつ教員を配置してリーダー養成を行っています。また、修士課程に災害看護学分野の専門看護師教育課程を開きました。熊本地震等では、学生たちは災害時被災地に赴き、支援活動をする中で学ぶという実践的な学修に取り組んでいます。

国際交流センターでは、教員を専任で配置し、国際交流機会の充実をはかっています。国際交流は予算的な面で困難も多いのですが、養成所時代からの同窓生による寄付による記念奨学金が役立ち、大変感謝しているところです。さらなる学修支援のために、サポーター募金を始めることとしました。30周年記念式典における歴代同窓生のリレーメッセージ（本学ホームページ参照）には、人道がしっかりと根付いていることが伺われ、今後も意を強くして教職員一同励んでまいります。

■看護学研究科（修士課程・博士後期課程）

修士課程看護学専攻には、8つの専門看護師（CNS）教育課程があります。平成28年度にクリティカルケア看護学の38単位専門看護師教育課程が承認され、平成29年度よりすべての専門看護師教育課程が38単位のコースとなります。

修士課程国際保健助産学専攻では、カンボジアでの実習を行いました。

また、平成29年度より、博士後期課程の定員を5人から8人へ増員を図ります。

カンボジアでの実習における報告会

■共同大学院5年一貫制 博士課程共同災害看護学専攻（DNGL）

本学を含む5つの国公私立大学による、日本初の博士課程「共同災害看護学専攻」では、グローバルリーダーの養成に取り組んでいます。

東日本大震災後の福島県浪江町民の健康支援事業への参加、日赤とフィリピン赤十字社の台風「ハイエン」復興事業にかかる調査への参加、熊本地震での被災地支援などの実践、また国際会議（EFONS）での発表等の研究、DNGL国際セミナー、学生ゼミの企画・運営を通して、リーダーシップ・マネジメント力の向上を図りました。

大学院生と熊本地震災害派遣看護師のミーティング

■国際交流

10月にスウェーデン赤十字大学及びスイスのラ・ソース大学の交換学生計4人を受け入れ、日赤医療センター、武蔵野赤十字病院、精神障害者の地域施設等で実習を行いました。8月はオーストラリアのモナシュ大学で7人の学生が語学研修、平成29年3月には、スウェーデン赤十字大学及びラ・ソース大学で各2人の交換学生が実習を行いました。

また8月には大学院生対象の海外研修の実現に向け、グラスゴー・カレドニアン大学にて視察等を行い、9月にはカンボジア健康科学大学と正式に大学間交流協定を締結しました。

武蔵野赤十字病院を訪問した交換学生

■30周年記念事業

大学創立30周年記念として10月8日に記念事業を開催しました。第1部を記念式典、第2部として、1回生から31回生までの卒業生・在学生による「リレーメッセージ」を開催し、多くの同窓生、卒業生、関係者の参加を得ました。

また、寄付事業として、広尾ホール、実習室等の教育機器の整備、校歌の音楽CDの作成等を行うとともに、記念誌「日本赤十字看護大学125年史」を編集・発行、大学の歴史紹介DVDを作成しました。

大学創立30周年記念式典

■地域貢献

地域連携フロンティアセンターにおいて、実習指導者研修会やフロンティアセミナーを開催しました。また、武蔵野市との提携のもと、15年の歴史がある武蔵野地域防災セミナー「避難支援活動協力員養成講座」を開催しました。

東日本大震災後の福島県浪江町民の健康支援事業「なみえ保健室プロジェクト」を平成24年から継続するとともに、広尾地区の防災活動のための「広尾地区防災プロジェクト」では、広尾中学校への防災訓練支援、氷川地区住民対象の防災対策講座を実施しました。

避難支援活動協力員養成講座

■図書館の教育研究環境整備

学部生・大学院生の学習ニーズに対応するために、新たなデータベースを導入しました。

また、同窓会、同方会の寄付により看護の歴史や理論書の書籍コーナーも充実させるとともに、本学所蔵の看護の歴史資料のデジタル化を進めています。さらに、働きながら学ぶ学生の支援を目的に、平成29年度からの日曜日開館に向け、図書館の体制を整備しました。

図書館入口近くに新設した新着図書コーナー

■学生の自主活動

学生サークルのNACEF（ナセフ）は、15人が8月にカンボジアの児童施設にて健康教育を行い、また、学生サークルHina harap（ハイナハラップ）は、8月・10月に26人、2月・3月に27人が、フィリピンのクリニックにて子ども達と触れ合う企画を行いました。

災害救護ボランティアサークル（SKV）は、34人が8月に岩手県山田町にて健康体操などにより住民との交流を行ったほか、ガーデニングサークルArrosoir（アロゾワール）が大学構内に季節毎の花を育てる活動を開始しました。

カンボジアの児童施設にて（学生サークルNACEF）

「救いたい」—その思いが世界につながる出発点

日本赤十字豊田看護大学

[設置学部等]
看護学部／大学院

[住　所]
愛知県豊田市白山町七曲12-33

[電　話]
0565-36-5111

学長
鎌倉やよい

平成28年度に開学13年目を迎え、人道を基盤とした赤十字の思想を涵養する理念のもと、災害看護学、災害救護、国際保健医療支援実習等の科目を配置し、看護学基礎教育を行ってきました。今年度も138名が卒業し、併せて1,373名の卒業生を送り出しました。

大学院修士課程では、研究・教育者コースと専門看護師コースを置き、高度な看護実践能力並びに研究・教育能力の育成を目指して教育を提供しています。さらに、平成28年4月に博士後期課程共同看護学専攻を開設し、研究者・教育者を育成する体制が整いました。

本学は第二次日本赤十字学園中期計画（平成26～30年度）の目標達成に向けて、平成28年度計画を立案し、学長の将来ヴィジョンとして、教学マネジメント力・教育力・研究力の育成を基盤とした6項目（災害支援、地域連携、国際交流、赤十字資料室活用、学生支援、職場環境調整）に基づく施策を反映させてきました。これらを各委員会において教職員が協働して遂行し、四半期ごとに評価しています。

また、平成29年に大学基準協会の認証評価を受審するにあたり、本学の理念・目的を達成するための組織と運営について自己評価する機会を得て、組織改変と規程改正を実施しました。裁量労働制導入準備、ヘルスプロモーションセンターによる「つばめ体操」等の地域連携に向けた施策の着手、大学生協導入準備など、概ね整いました。

■国際保健医療支援実習を実施
[平成28年8月28日～9月4日／タイ・ミャンマー]

この実習は発展途上国における保健活動や医療支援の実際を学習し、将来国際保健医療支援活動としての看護実践ができる基本能力を培うことを目的としています。

現地では、タイ・ミャンマーそれぞれの赤十字社や医療施設を訪問し、働いている職員、看護師の方々から直接お話しを伺うことができました。1週間という短い期間でしたが、自分が将来目指す看護師とは何かを考える良い機会になるとともに、異文化に触れる貴重な体験をすることができました。

国際保健医療支援実習のメンバー

■英国語学研修を実施
[平成28年8月27日～9月19日／イギリス]

イギリス南西部の港湾都市プリマスを訪問し、ホームステイをしながら英語を学びました。また、現地の赤十字社や病院などを訪問し、他国における医療を取り巻く環境や看護ケアの方法について日本との違いを学ぶ貴重な経験となりました。

説明を熱心に聞く学生

■日本赤十字社東海北陸ブロック血液センターへの施設見学［平成29年1月12日］

血液センター職員から説明を受ける学生

1年生が日本赤十字社の血液事業に対する理解を深めることを目的として日本赤十字社東海北陸ブロック血液センターへ施設見学に行きました。始めに、血液センターの職員の方から血液事業の現状、若年層への啓発活動の重要性についてのお話しを頂き、その後、製剤部門や検査部門を見学し、実際に血液製剤が出来上がるまでの工程などを勉強しました。

この見学は「形態機能学Ⅱ」の授業の一環でもあり、学生にとって普段の講義とは違った貴重な体験の場となりました。

■防災・減災に関する締結［平成28年9月1日／豊田市役所］

平成25年3月に豊田市と締結した包括連携協定の一環で、市と大学が連携して災害に強いまちづくりを進め、大規模災害発生時には相互に協力して市民や学生の生命を守り、防災・減災に努めることを目的としています。

本学からは、鎌倉学長が出席し、災害発生時には教職員による被災者のフォローアップや災害ボランティアの派遣など、赤十字の大学として可能な限りの支援を行いたい旨を述べました。

防災・減災に関する協定締結式

■里帰りイベントの開催［平成28年10月22日］

本学において第5回里帰りイベントが開催されました。このイベントは本学の卒業生で組織される同窓会が主催者となり、卒業生と在学生の交流などを目的として毎年開催されているものです。始めに奥村潤子本学名誉教授より、「看護師としての自分史」というテーマで講演頂き、その後卒業生と在学生との交流会を行いました。卒業生からは、多くのお話しを伺うことができ、在学生にとっても大変貴重な時間を過ごすことができました。

臨時救護所を想定した訓練

■日赤愛知県支部主催救護員研修への参加［平成28年11月8日～10日］

11月8日～10日まで、平成28年度日本赤十字社愛知県支部救護員研修が行われました。研修には本学の学生と教職員が参加し、1日目は同支部にて災害時のシミュレーション、2日目は春日井市総合体育館を会場に実動災害訓練「災害拠点病院支援活動」を行いました。3日目は本学体育館を大地震発生後から数日後の臨時救護所と想定し、様々な患者をいかに効率よく診療するかということを目的とした「仮設診療所を使用した救護所運営」を実施しました。

■「つばめ体操」の啓発運動

学生が中心となって、嚥下機能が衰えた高齢者に物を飲み込む力を強化してもらうことを目的とした体操（つばめ体操）の啓発運動を行っています。

平成29年度は学生が区民会館などに出向いて、高齢者の皆様とふれあいながらレクチャーを行う予定です。地域住民の健康意識の高まりを促すことや、地域住民とのふれあいを通じて学生による社会貢献などを目的としています。

つばめ体操の様子

赤十字の理念のもと、看護の知恵と心と技を育む

日本赤十字広島看護大学

［設置学部等］
看護学部／大学院

［住　所］
広島県廿日市市阿品台東1-2

［電　話］
0829-20-2800

学長
小山眞理子

本学は、平成12年に開学し、教育・研究・地域貢献を3つの柱に、様々な取り組みを進めてまいりました。

具体的には、国際的に貢献できる看護師の育成を目指した国際救援・開発協力看護師コースの設置や模擬患者の協力による教育等の先駆的な教育体制の整備、研究成果を地域や臨床現場に還元する取り組み、公開講座や専門職対象の研修会の開催等の地域貢献事業を行っています。また、東日本大震災、広島市土砂災害、熊本地震に際しては、学生と教職員が協力し、被災地でのボランティア活動など赤十字の理念を実践する取り組みを行ってきました。

これまで累計で2,000人を超える学部卒業生を輩出し、卒業生は広島県内をはじめ全国の赤十字病院等で活躍しています。また、教育改革や地域貢献を進めた結果、私立大学等改革総合支援事業「タイプ1：教育の質的転換」、「タイプ2：地域発展」に採択されました。

今後とも、地域包括ケアなど社会の変化に対応したカリキュラム改正やアクティブラーニング促進のためのＩＣＴ環境の充実、大規模災害時における地元自治体との連携強化等を通して、学生に選ばれ、地域に愛される大学として尽力してまいります。

■赤十字の特色を生かした教育プログラム

災害などの緊急救援や開発途上国での開発協力に活躍できる人材を育成する国際救援・開発協力看護師コースを設置しています。また、赤十字救急法などを必修科目とし、救護に必要な知識や技術を学んでいます。さらに、世界に広がる赤十字ネットワークを生かして、グローバルな視点を持つ看護師養成に力を入れており、平成28年度は、赤十字発祥の地や国際機関（WHO等）を訪問する国際看護学演習に9人、英国語学研修に15人が参加しました。

救援コース：避難所運営の演習

■大学院看護学研究科共同看護学専攻（後期3年博士課程）を開設

平成28年度に開設した博士課程では、4人の学生が在籍し、より高度な看護実践知を基盤として、自立した研究者や高度な看護実践能力を有する人材の育成を目指しています。共同で運営する5つの赤十字看護大学が遠隔授業システムなどを活用し、他大学の教員の知見など、複数の専門領域にわたり質の高い教育を提供しています。

遠隔授業の様子

■大学院修士課程CNSコースに「災害看護学」分野設置と新カリキュラムを構築

修士課程専門看護師（CNS）コースの「災害看護学」は、平成28年11月、日本看護協会が認定する専門看護師の新たな分野として特定されました。これにより、平成29年12月には、本学から災害看護専門看護師の誕生が見込まれます。また、看護を取り巻く環境が大きく変革する中で、看護専門職として広い視野と高い臨床能力を持ち、教育・研究的な視点を備えた人材育成を目指した新たなカリキュラムを構築し、平成30年度から実施します。

■アクティブラーニングの促進

学生主体の授業を充実させるため、講義室の一部の机・椅子を固定式から可動式とし、グループワークなどに柔軟に対応できる設備を整備しました。また、自己学習を支援するために整備しているVideo on Demand（VOD）に、スマートフォン対応の環境を整備しました。

シミュレーションセンターでは、臨床看護師のアドバイスを受けながら、モデル人形を用いた自己学習ができ、利用者は対前年300件以上増の2,840件に上っています。

モデル人形を用いた血圧測定

■実践力を養成する看護教育

看護実践能力の修得と自己の課題を明確にするため、地域の方々などに模擬患者として協力を得て、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施しています。また、新たに全学年対象に、看護実践能力に必要な知識等が一定基準に達しているか評価するComputer Based Test（CBT）を導入しました。OSCE評価者として56人の臨床看護師の協力があり、学生の看護観形成や実践力向上のために赤十字看護教育サポーター24人の協力を得て「赤十字看護の心と技」を伝えました。

模擬患者による実技演習

■認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）

認定看護師教育課程は、平成28年度には30人が課程を修了し、平成21年度の開講以来計204人の修了生を輩出しました。修了生は、嚥下障害のある人々の食支援や誤嚥性肺炎予防等に関して、高度実践力をもって全国で活躍しています。開講期間中は、講座の一部を地域の専門職や住民に公開し、年間延べ400人以上が受講するなど関心を集めています。

摂食・嚥下障害看護公開講座

■地域貢献の推進

地域貢献は本学の柱の一つであり、専門職や地域住民対象の公開講座、各種イベント参加を通じて大学の知見の地域還元活動を継続しています。これらの活動は、文部科学省の私立大学等改革総合支援事業（タイプ2：地域発展）として評価されています。

平成28年度は、公開講座等の総事業35件と対前年4件増となり、参加者は延べ2,000人を超えました。中でも脳卒中に関する公開講座や消防署等とも連携した災害対策講座は、好評を博しました。

地域住民対象の公開講座

■ブックケアプロジェクトの実施

在学生、卒業生、教職員、一般の方から不要となった書籍（CD・DVD等も含む）を本学にお送りいただき、その買取金額が「日本赤十字広島看護大学ブックケアプロジェクト」への寄付金として、本学の図書充実に活かされています。平成26年度から事業を開始し、これまでに約30万円の寄付がありました。平成28年度は約8万円が集まり、代表学生8人が自分たちで本を選ぶ「ブックハンティング」を実施し、80冊の本を購入することができました。

ブックハンティング書籍コーナー

■グローバル化の推進 ～フィリピン大学及びフィリピン赤十字社との交流等

大学のグローバル化を推進するにあたり、教職員を対象にグローバル化の意識と本学の支援体制に関する意見調査を行いました。

また、平成28年7月にはフィリピン大学とフィリピン赤十字社の関係者2人を迎え、フィリピンにおける看護教育や災害救援についての特別講演会や学生との交流会を実施し、この交流を契機として、フィリピン大学との交流関係構築に向け、協議を開始しました。

ひとりを看る目、その目を世界へ

日本赤十字九州国際看護大学

[設置学部等]
看護学部／大学院

[住　所]
福岡県宗像市アスティ1-1

[電　話]
0940-35-7001

学長
田村やよひ

本学は平成13年の開学以来、赤十字の「人道」の理念を基調とし、人間の尊厳を尊重した看護職者の育成を目指しております。今日のグローバル社会を見通し、海外でも活躍できる看護職の育成にも力を入れて参りました。それは「ひとりを看る目、その目を世界へ」のキャッチフレーズに表現されています。

本学の学部教育では、多様な人間存在のあり方や価値観を受け容れ、豊かな教養を身につけられるようリベラル・アーツ教育を重視するとともに、看護学では高い専門性を視野に入れた教育を行っており、平成28年度には「国際コース」を開設しました。

大学院では平成19年度に開設した修士課程に加えて、平成28年度から日本赤十字学園の他の4つの看護大学と共同して大学院看護学研究科共同看護学専攻（後期3年博士課程）を設置し、研究指導体制を強化したところです。

■教育の充実

文部科学省平成28年度大学教育再生加速プログラム（AP：Acceleration Program for University Education Rebuilding）テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」に採択され、大学教育改革の推進を目的に、大学及び関係医療機関（福岡、今津、嘉麻、大分、熊本、山口赤十字病院）が人材育成ビジョンを共有し、学士課程教育から現任教育までをシームレスに接続する共通評価基準の開発を目指しています。

この「看護職キャリアパス基礎スケール＜仮称＞」に加え、学位証明書補足資料として就職先と共有できる「ディプロマ・サプリメント」を平成31年度までに作成する見込みです。

ラーニングコモンズで自習する学生

学生自身の達成度評価による学修意識改革につなげるために、クラウド型「学生ポータルサイト」の運用を開始しました。これは、教員が学生基本情報・成績・授業評価・各種アンケートの集計結果の閲覧、面談記録の共有、各種連絡事項の掲示板機能の活用が可能となり、学生指導に関する利便性が向上するだけでなく、学生が在籍期間を通じ、自身の学びを可視化し、主体的な学びにつなげることを目的としています。

看護継続教育センターにより平成22年度から開設している「救急看護認定看護師教育課程」については、平成29年度実施を最後に、平成29年4月に開設する大学院修士課程「CNSコース」にて「在宅看護」「クリティカルケア看護」の2領域において専門看護師の養成を行っていくこととし、大学院の領域を再編し、「助産教育コース」の独立、「保健コース」の編成を変更することを決定しました。

■学生募集活動

看護学部では、18歳人口の減少に加え、本学が所在する福岡県内では、開学当時4校だった看護系大学が現在12校開設されており、受験生の確保が喫緊の課題となっております。

平成28年度の新たな取り組みとして、高校進路相談担当の教員向け説明会の開催、平成30年度入試から一般入試科目の変更、また、赤十字病院事前予約奨学金制度（入学試験合格発表時に奨学生内定を通知）を創設しました。

大学院では、平成30年度入試から前期試験を従来の日程から早めて優秀な修士課程の学生を確保することにつなげると共に、大学院案内（紙及び電子媒体）を早期に作成し、広報することにより、募集活動を強化することを決定しました。

■平成28年熊本地震災害への対応

前震とされる4月14日の翌日に、昼休みに自主的な学生集会が開かれ、「赤十字の看護学生として何ができるか」というテーマで話し合いが持たれました。その結果、「学生復興支援委員会」が立ち上がり、本震が発生した16日から募金活動を開始しました。その他、ガレキ撤去、避難所清掃、福祉避難所への訪問など、多様なボランティア活動を継続しています。

熊本地震募金活動を行う学生たち

■国際シンポジウムの開催

国際看護実践研究センター主催の「国際シンポジウム」を開催し、熊本地震での取り組みを学びの機会ととらえ、「震源地宗像震度7　あなたにできること　—情報が届きにくい方への支援を考える—」をテーマに、学外の参加者を交えたディスカッションを行いました。

国際シンポジウム　避難所シミュレーションの様子

■「H.E.L.P. in JAPAN」の開催

日本赤十字社国際部、ICRC（赤十字国際委員会）と共同で隔年開催する人道研修H.E.L.P.（Health Emergencies in Large Populations）in JAPANについて、5ヶ国（タイ、ネパール、モンゴル、中国、日本）から22人が参加し、8月末から2週間の研修を実施しました。

演習や体験発表などにより相互理解を深めた

■地域・他大学等との連携

本学が立地する宗像市との連携事業（むなかた大学のまちゼミナール）や地域住民の健康増進を目的とした「スポーツdeハッピー事業」、JICA研修受入（インドネシア国看護実践能力強化プロジェクト、集団研修–保健人材育成–）、九州の看護系大学と協働し、「大学間連携協働教育推進事業」としてキャリア像確立、単位互換等の取り組みを実施しました。

事業の概要

学生の動向

1 入学者の状況（平成28年5月1日現在）

平成28年度の学部入学者は、6大学で766人となり、定員超過率は111.8%となりました。

短期大学における入学者の確保は、例年厳しい状況にあり、本年度は24人（定員50人）となりました。大学院の入学者は、修士課程に84人、博士課程に28人が入学しました。なお、平成28年度から後期3年博士課程で共同看護学専攻が開始されたことから人数が増加しております。

（単位：人）

		学部			大学院				
		定員	合格者	入学者	課程	専攻	定員	合格者	入学者
日本赤十字北海道看護大学	1年次入学	100	157	109	修士	看護学	16	11	11
					博士	共同看護学 ※1	2	3	3
日本赤十字秋田看護大学	1年次入学	100	151	120	修士	看護学	12	6	6
					博士	共同看護学 ※1	2	3	3
日本赤十字看護大学	1年次入学	130	295	147	修士	看護学	30	31	30
						国際保健助産学	15	19	16
					博士	看護学 ※2	5	12	12
	3年次編入	10	13	12	博士	共同災害看護学 ※3	2	2	2
日本赤十字豊田看護大学	1年次入学	120	370	135	修士	看護学	10	8	7
					博士	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字広島看護大学	1年次入学	125	281	133	修士	看護学	10	4	4
					博士	共同看護学 ※1	2	4	4
日本赤十字九州国際看護大学	1年次入学	100	208	110	修士	看護学	10	10	10
					博士	共同看護学 ※1	2	2	2
合計	1年次入学	675	1,462	754	修士	看護学	88	70	68
						国際保健助産学	15	19	16
						計	103	89	84
					博士	共同看護学 ※1	10	14	14
						看護学 ※2	5	12	12
	3年次編入	10	13	12		共同災害看護学 ※3	2	2	2
	計	685	1,475	766		計	17	28	28

※1 後期3年博士　※2 博士後期課程　※3 博士課程5年一貫制　※4 大学はすべて看護学部であること。　※5 大学院はすべて看護学研究科であること。

（単位：人）

	介護福祉学科		
	定員	合格者	入学者
日本赤十字秋田短期大学	50	25	24

2 在学生の状況（平成28年5月1日現在）

平成28年度の学部在学者は、6大学で3,059人、定員超過率は112.1%となりました。

大学院においては、修士課程で231人、博士課程に56人が在学し、短期大学の在学者は70人でした。

（単位：人）

	学部		大学院			
	定員	在学生	課程	専攻	定員	在学生
日本赤十字北海道看護大学	400	435	修士	看護学	32	35
			博士	共同看護学 ※1	2	3
日本赤十字秋田看護大学	400	455	修士	看護学	24	31
			博士	共同看護学 ※1	2	3
日本赤十字看護大学	540	606	修士	看護学	60	62
				国際保健助産学	30	33
			博士	看護学 ※2	15	36
			博士	共同災害看護学 ※3	6	6
日本赤十字豊田看護大学	480	555	修士	看護学	20	22
			博士	共同看護学 ※1	2	2
日本赤十字広島看護大学	510	572	修士	看護学	20	22
			博士	共同看護学 ※1	2	4
日本赤十字九州国際看護大学	400	436	修士	看護学	20	26
			博士	共同看護学 ※1	2	2
合計	2,730	3,059	修士	看護学	176	198
				国際保健助産学	30	33
				計	206	231
			博士	共同看護学 ※1	10	14
				看護学 ※2	15	36
				共同災害看護学 ※3	6	6
				計	31	56

※1 後期3年博士　※2 博士後期課程　※3 博士課程5年一貫制　※4 大学はすべて看護学部であること。　※5 大学院はすべて看護学研究科であること。

（単位：人）

	介護福祉学科	
	定員	在学生
日本赤十字秋田短期大学	100	70

学生の動向

3 卒業生の進路状況（平成29年4月1日現在）

平成28年度の学部卒業者は766人であり、赤十字病院への就職率は、479人(62.5%)で、大学院修士課程では30人(34.1%)、短期大学では1人(2.3%)が赤十字関連施設に就職しました。なお、学部の卒業生のうち約半数の378人(49.3%)が赤十字奨学金を受給しています。

【看護学部】

（単位：人）

学校名		卒業者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字以外の病院	その他（教育機関等）	進学（専門学校を含む）	就職・進学以外の進路	進路未定者
日本赤十字北海道看護大学		105	99	76	72.4%	18	5	6	0	0
	(内、赤十字奨学生)	73	71	71		0	0	2	0	0
日本赤十字秋田看護大学		118	104	41	34.7%	60	3	8	1	5
	(内、赤十字奨学生)	16	16	16		0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学		154	134	110	71.4%	21	3	15	3	2
	(内、赤十字奨学生)	107	105	105		0	0	1	0	1
日本赤十字豊田看護大学		138	135	110	79.7%	24	1	3	0	0
	(内、赤十字奨学生)	106	104	103		0	1	2	0	0
日本赤十字広島看護大学		146	140	80	54.8%	57	3	1	0	5
	(内、赤十字奨学生)	44	44	44		0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学		105	97	62	59.0%	35	0	5	0	3
	(内、赤十字奨学生)	32	31	29		2	0	1	0	0
合計		766	709	479	62.5%	215	15	38	4	15
赤十字奨学生合計		378	371	368		2	1	6	0	1

※「就職」と「進学」には働きながら進学するものを各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

【大学院】

（修士課程）

（単位：人）

学校名		卒業者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 医療機関 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字以外の病院	その他（教育機関等） 赤十字関係	その他（教育機関等） 赤十字以外	進学者 赤十字関係	進学者 赤十字以外	進路未定者（就職・進学以外の進路含む）
日本赤十字北海道看護大学		16	16	5	31.3%	7	3	1	0	0	0
	(内、赤十字奨学生)	2	2	2		0	0	0	0	0	0
日本赤十字秋田看護大学		7	7	0	0.0%	6	1	0	0	0	0
	(内、赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学		40	34	12	30.0%	19	0	3	5	0	1
	(内、赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学		5	5	1	20.0%	1	0	3	1	0	0
	(内、赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字広島看護大学		10	8	2	20.0%	2	2	2	0	0	2
	(内、赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学		10	10	1	10.0%	4	3	2	0	0	0
	(内、赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
合計		88	80	21	23.9%	39	9	11	6	0	3
赤十字奨学生合計		2	2	2		0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学するものを各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

（博士後期課程）

（単位：人）

学校名		卒業者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 医療機関 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字以外の病院	その他（教育機関等） 赤十字関係	その他（教育機関等） 赤十字以外	進学者 赤十字関係	進学者 赤十字以外	進路未定者（就職・進学以外の進路含む）
日本赤十字看護大学		5	5	0	0.0%	1	0	4	0	0	0
	(内、赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学するものを各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

【短期大学　介護福祉学科】

（単位：人）

学校名		卒業者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字社会福祉施設等	赤十字以外の医療施設	赤十字以外の社会福祉施設等	その他（教育機関等）	進学	就職・進学以外の進路	進路未定者
日本赤十字秋田短期大学		44	41	0	0.0%	1	5	35	0	1	1	1
	(内、赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学するものを各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

学生の動向

4 国家試験の合格状況（平成29年3月27日発表）

看護師国家試験の新卒者合格率は、6看護大学平均で96.9%であり、合格率100%を目指し引き続き教育・指導を強化することとしています。

助産師国家試験、保健師国家試験の新卒者の合格率は、それぞれ92.3%、93.9%となりました。

●第106回看護師国家試験

（単位：人）

学校	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	108	103	95.4%	105	101	96.2%	3	2	66.7%
日本赤十字秋田看護大学	121	112	92.6%	118	109	92.4%	3	3	100.0%
日本赤十字看護大学	142	140	98.6%	142	140	98.6%	0	0	該当なし
日本赤十字豊田看護大学	141	137	97.2%	138	136	98.6%	3	1	33.3%
日本赤十字広島看護大学	153	148	96.7%	146	143	97.9%	7	5	71.4%
日本赤十字九州国際看護大学	108	103	95.4%	105	102	97.1%	3	1	33.3%
合計	773	743	96.1%	754	731	96.9%	19	12	63.2%

●第100回助産師国家試験

（単位：人）

学校	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学大学院	6	6	100.0%	6	6	100.0%	0	0	該当なし
日本赤十字秋田看護大学大学院	4	4	100.0%	4	4	100.0%	0	0	該当なし
日本赤十字看護大学大学院	13	11	84.6%	13	11	84.6%	0	0	該当なし
日本赤十字九州国際看護大学大学院	4	4	100.0%	4	4	100.0%	0	0	該当なし
計（大学院）	27	25	92.6%	27	25	92.6%	0	0	該当なし
日本赤十字広島看護大学（学部）	12	11	91.7%	12	11	91.7%	0	0	該当なし
合計	39	36	92.3%	39	36	92.3%	0	0	該当なし

●第103回保健師国家試験

（単位：人）

学校	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	17	17	100.0%	16	16	100.0%	1	1	100.0%
日本赤十字秋田看護大学	59	50	84.7%	54	47	87.0%	5	3	60.0%
日本赤十字看護大学	21	21	100.0%	21	21	100.0%	0	0	該当なし
日本赤十字豊田看護大学	24	22	91.7%	23	22	95.7%	1	0	0.0%
日本赤十字広島看護大学	31	31	100.0%	30	30	100.0%	1	1	100.0%
日本赤十字九州国際看護大学	24	20	83.3%	21	19	90.5%	3	1	33.3%
合計	176	161	91.5%	165	155	93.9%	11	6	54.5%

教育活動の動向

各大学において学生のニーズに配慮した質の高い教育・研究への取り組みを実施しております。また、秋田短期大学では医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

1 遠隔教育システムを用いた連携

遠隔教育システムを活用し、平成26年度から日本赤十字看護大学が他の国公立の4大学と連携した「5年一貫制博士課程 共同災害看護学専攻」を開設し、災害看護のグローバルリーダーの養成を開始しています。

平成28年度は、当学園専用のひかり回線で結ぶ遠隔教育システムを用いて、北海道、秋田、豊田、広島、九州国際の5看護大学で「大学院看護学研究科共同看護学専攻（後期3年博士課程）」を開設しました。これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を1つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者等の育成を目指しています。

2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では臨地実習科目の約7割、多い大学では8割強を日本赤十字社の医療施設と連携して行っています。赤十字病院は看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が師長で9割強、係長で5割近くおり、質の高い臨地実習環境が提供されています。

3 大学院における専門看護師（CNS）教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上をはかることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、当学園の看護大学大学院（北海道、秋田、日看大、豊田、広島）において、専門看護師教育課程を開設しています。

また、日本赤十字九州国際看護大学では、平成28年度にクリティカルケア看護と在宅看護で認定を受け、平成29年度から開設することとなりました。これにより、当学園の全大学院で専門看護師（CNS）の教育課程が開設されることとなります。

平成28年度は、5看護大学で合計17人が同教育課程を修了しました。

●専門看護師教育課程を設置する大学

（単位：人）

専門看護師教育課程を設置する大学	教育課程名	修了者数
日本赤十字北海道看護大学大学院（看護学研究科看護学専攻）	がん看護	0
	慢性看護	0
	精神看護	1
日本赤十字秋田看護大学大学院（看護学研究科看護学専攻）	がん看護	0
日本赤十字看護大学大学院（看護学研究科看護学専攻）	がん看護	1
	小児看護	2
	慢性看護	3
	クリティカルケア看護	1
	老年看護	1
	精神看護	1
	在宅看護	0
	災害看護	3
日本赤十字豊田看護大学大学院（看護学研究科看護学専攻）	母性看護	0
	精神看護	1
	小児看護	1
日本赤十字広島看護大学大学院（看護学研究科看護学専攻）	がん看護	1
	小児看護	1
	精神看護	0
	災害看護	0
合計	―	17

注）CNS：Certified Nurse Specialist

4 認定看護師（CN）教育課程

社会のニーズに対応した、より質の高い看護実践を提供できる看護師を育成するために、当学園内4看護大学（秋田、日看大、広島、九州国際）において認定看護師教育課程を設置しています。

平成28年度は、3看護大学で合計72人が同課程を修了しました。

●認定看護師教育課程を設置する大学

（単位：人）

認定看護師教育課程を設置する大学	教育課程名	修了者数
日本赤十字秋田看護大学（卒後教育開発センター）	認知症看護	19
日本赤十字看護大学（看護実践・教育・研究フロンティアセンター）	糖尿病看護	休講
	認知症看護	休講
	慢性呼吸器疾患看護	休講
日本赤十字広島看護大学（ヒューマン・ケアリングセンター）	摂食・嚥下障害看護	30
日本赤十字九州国際看護大学（看護継続教育センター）	救急看護	23
合計	―	72

注）CN：Certified Nurse

研究活動の動向

日本赤十字学園が設置する6看護大学・1短期大学では、災害・国際看護などの看護学や介護に関する研究、看護教育に関する研究、赤十字に関する研究など、各教員の専門性を活かした研究への取り組みが行われました。

1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として20件の応募があり、14件を採択しました。平成27年度からの継続研究2件及び平成27年度からの持越し事業の1件を合わせ、合計17件の研究助成を決定し、15,088千円を交付しました。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」による支援については、10件の応募があり、8件を採択しました。平成27年度からの継続研究1件を合わせ、合計9件の研究助成を決定し、約4,310千円を交付しました。

●平成28年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況

【新規】

大　学　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字北海道看護大学	共同教育課程でのテレビ会議システムおよびインターネットを介した遠隔授業・個別指導の教育効果に関する基礎的研究	H28
	認知症高齢者の看護にともなう困難感尺度の作成	H28～H29
日本赤十字秋田看護大学	秋田県過疎地域に住む高齢者世帯の災害に対する備えと対策　.	H28～H29
日本赤十字看護大学	第二次世界大戦における日本赤十字社救護看護婦の活動	H28～H29
	病院に勤務するがん看護専門看護師の在宅看取りに向けた支援プログラムの効果の検証　ー訪問看護師と連携してー	H28～H29
	地域中核病院における病棟ー外来ー地域をつなぐセルフケア支援の検討	H28～H29
	赤十字の看護系教育機関における防災対策マニュアルの作成　ー赤十字の教育機関としてー	H28～H29
日本赤十字豊田看護大学	軽擦法（Swedish massage）における効果判定尺度の開発	H28～H29
	中小規模赤十字病院におけるキャリア開発プログラムの促進にWeb会議を導入した研究支援システムの開発	H28～H29
	赤十字病院における子どもと家族を支える在宅医療移行の現状と課題	H28～H29
	特別養護老人ホームの看取りにおける家族への説明方法の検討　ーパンフレットの考案と適用ー	H28
日本赤十字広島看護大学	デルファイ法による認知症患者に必要な非薬物療法の検討	H28～H29
5大学12件		

※外部資金（科研費）の採択が決まったことによる交付取り消し等、中止された2件を除いている。

【継続】

大　学　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字看護大学	看護大学生の入学前の学習状況と入学後の能動的学修への取組に関する調査研究	H27～H28
	腎不全を抱える患者と家族の個別ニードに即した援助モデルの構築と評価　ー腎不全医療に関わる実践家とのアクション・リサーチを通してー	H27～H28
1大学2件		

【平成27年度事業のうち平成28年度へ持ち越した事業】

大　学　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字広島看護大学	専門看護師教育課程における「コンサルテーション論」の教育内容と方法の検討	H26～H28
1大学1件		

●平成２８年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」による支援事業の状況

【新規】

大　学　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	心臓血管外科病棟看護師がもつ大動脈瘤破裂手術後患者に対する退院後の生活支援への役割認識	H28～H29
	母性看護学実習において分娩見学時に学生が受けるストレスと気分の変化	H28～H29
	本学の「保健師教育に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」からみた公衆衛生看護学の効果的な教育方法の検討	H28～H29
	地域包括ケアシステムにおける看護職の在宅シフト型コンピテンシー尺度開発の試み	H28～H29
	国連ミッション計画立案過程における政治メカニズム	H28
日本赤十字豊田看護大学	看護大学生のレジリエンス評価と関連要因の探索	H28
2大学6件		

※外部資金（科研費）の採択が決まったことによる交付取り消しで中止された2件を除いている。

【継続】

大　学　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	若年性乳がん患者とパートナーが捉えるセクシュアリティに対する認識	H27～H28
1大学1件		

2 科研費等競争的外部資金の研究（平成28年5月1日現在）

各大学は、研究活動の活性化のため、科学研究費補助金等の競争的外部資金への積極的な応募を行いました。平成28年度は、6看護大学・1短期大学で合計105件（前年度92件）の新規応募を行い、25件（23.8%）が採択されています（前年度23件）。

助成金額のうち、「直接経費」の合計額は、134,082千円となっており、そのうち、「研究代表者」として獲得した金額は91,393千円（68.2%, 前年度65.8%）でありました。

●平成28年度科学研究費等競争的外部研究資金の申請・採択状況

1. 大学別採択件数等

（単位：件）

学　校　名	研究代表者				研　究 分担者
	新　規		継　続	合　計	
	申　請	採　択			
日本赤十字北海道看護大学	33	4	5	9	0
日本赤十字秋田看護大学	15	4	3	7	5
日本赤十字看護大学	17	7	15	22	7
日本赤十字豊田看護大学	14	2	9	11	0
日本赤十字広島看護大学	16	2	11	13	6
日本赤十字九州国際看護大学	8	5	9	14	1
日本赤十字秋田短期大学	2	1	1	2	2
合　　計	**105**	**25**	**53**	**78**	**21**

2. 大学別助成金額

（単位：千円）

学　校　名	直接経費				間接経費	合　計
	研究代表者		研究分担者	小　計		
	新　規	継　続				
日本赤十字北海道看護大学	4,342	15,812	0	20,154	4,188	24,342
日本赤十字秋田看護大学	4,650	1,500	1,100	7,250	2,175	9,425
日本赤十字看護大学	12,300	20,500	38,516	71,316	9,972	81,288
日本赤十字豊田看護大学	1,200	3,300	0	4,500	1,350	5,850
日本赤十字広島看護大学	2,400	10,300	0	12,700	3,600	16,300
日本赤十字九州国際看護大学	3,300	10,269	2,973	16,542	4,071	20,613
日本赤十字秋田短期大学	420	1,100	100	1,620	486	2,106
合　　計	**28,612**	**62,781**	**42,689**	**134,082**	**25,842**	**159,924**

※継続研究には他の学校法人から当学園へ異動してきた者の継続研究も含む。
※赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学金基金にかかる教育・研究事業は除く。
※「研究分担者」とは、他の学校法人又は当学園の他校の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。

奨学金の給付・貸与状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・病院、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構、自治体等の178機関から、2,325人（実人数）〔延べ3,442人〕の学生が奨学金を受けました。これは、学部（科）の在学者のうちの72.5%、大学院在学者の19.0%にあたります。

そのうち、日本赤十字社各支部・病院からは、奨学金受給学生2,325人の約64.9%にあたる1,510人の学生に対して奨学金が支給されました。これは、学部（科）奨学生の66.4%、大学院奨学生の6.9%にあたります。

6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は、31億7,700万円強であり、学部の奨学生（実人数）では一人あたり約137万円、大学院では約116万円となりました。

●赤十字奨学金の大学別受給状況（平成28年度在学生の実績）

	支部名	受給状況							医療施設名	受給状況					
		日本赤十字北海道看護大学	日本赤十字秋田看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	日本赤十字九州国際看護大学			日本赤十字北海道看護大学	日本赤十字秋田看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	日本赤十字九州国際看護大学
								1	日本赤十字社医療センター	○		○		○	○
1	北海道	○						2	旭川赤十字病院	○					
								3	伊達赤十字病院	○					
								4	釧路赤十字病院	○					
								5	北見赤十字病院	○					
								6	栗山赤十字病院	○					
								7	浦河赤十字病院	○					
								8	小清水赤十字病院	○					
								9	置戸赤十字病院	○					
								10	函館赤十字病院	○	○				
								11	清水赤十字病院	○					
2	青森県		○					12	八戸赤十字病院		○				
3	岩手県							13	盛岡赤十字病院						
4	宮城県	○						14	仙台赤十字病院		○				
								15	石巻赤十字病院	○	○				○
5	秋田県							16	秋田赤十字病院		○				
6	山形県														
7	福島県		○					17	福島赤十字病院		○				
8	茨城県			○				18	水戸赤十字病院						
								19	古河赤十字病院			○			
9	栃木県			○				20	芳賀赤十字病院						
								21	那須赤十字病院						
								22	足利赤十字病院						
10	群馬県			○				23	前橋赤十字病院						
								24	原町赤十字病院						
11	埼玉県	○		○				25	さいたま赤十字病院	○		○		○	○
								26	小川赤十字病院						
								27	深谷赤十字病院			○			
12	千葉県	○	○	○				28	成田赤十字病院	○	○	○		○	○
13	東京都	○						29	武蔵野赤十字病院	○	○	○	○	○	○
								30	大森赤十字病院	○	○	○		○	
								31	葛飾赤十字産院			○			
14	神奈川県			○				32	横浜市立みなと赤十字病院		○	○		○	○
								33	秦野赤十字病院		○	○			
								34	相模原赤十字病院						
15	新潟県							35	長岡赤十字病院		○	○			○
16	山梨県			○				36	山梨赤十字病院						
17	富山県				○			37	富山赤十字病院				○		
18	石川県				○			38	金沢赤十字病院				○		
19	福井県				○			39	福井赤十字病院				○		
20	長野県				○			40	長野赤十字病院				○		
								41	諏訪赤十字病院		○		○		
								42	安曇野赤十字病院				○		
								43	川西赤十字病院						
								44	下伊那赤十字病院						
								45	飯山赤十字病院				○		
21	岐阜県				○			46	高山赤十字病院				○		
								47	岐阜赤十字病院				○		
22	静岡県	○			○			48	静岡赤十字病院	○	○	○	○	○	○
								49	浜松赤十字病院				○	○	
								50	伊豆赤十字病院				○		
								51	引佐赤十字病院						
								52	裾野赤十字病院				○		
23	愛知県				○			53	名古屋第一赤十字病院				○		
								54	名古屋第二赤十字病院			○	○	○	○
24	三重県				○			55	伊勢赤十字病院			○	○		
25	滋賀県							56	大津赤十字病院				○	○	
								57	大津赤十字志賀病院						
								58	長浜赤十字病院						
26	京都府							59	京都第一赤十字病院						
								60	京都第二赤十字病院					○	
								61	舞鶴赤十字病院						
27	大阪府					○		62	大阪赤十字病院			○	○	○	○
								63	高槻赤十字病院						
28	兵庫県					○		64	姫路赤十字病院					○	○
								65	柏原赤十字病院						
								66	多可赤十字病院						
								67	神戸赤十字病院				○	○	○
29	奈良県			○											
30	和歌山県							68	日本赤十字社和歌山医療センター				○	○	○
31	鳥取県							69	鳥取赤十字病院					○	
32	島根県					○		70	松江赤十字病院					○	
								71	益田赤十字病院					○	
33	岡山県							72	岡山赤十字病院					○	
34	広島県							73	広島赤十字・原爆病院					○	
								74	庄原赤十字病院						
								75	三原赤十字病院					○	
35	山口県					○	○	76	山口赤十字病院						
								77	小野田赤十字病院						
36	徳島県							78	徳島赤十字病院					○	
37	香川県							79	高松赤十字病院					○	○
38	愛媛県							80	松山赤十字病院						
39	高知県							81	高知赤十字病院					○	
40	福岡県						○	82	福岡赤十字病院						○
								83	今津赤十字病院						○
								84	嘉麻赤十字病院						○
41	佐賀県						○	85	唐津赤十字病院						
42	長崎県						○	86	日本赤十字社長崎原爆病院						
								87	日本赤十字社長崎原爆諫早病院						
43	熊本県						○	88	熊本赤十字病院						
44	大分県						○	89	大分赤十字病院						
45	宮崎県						○								
46	鹿児島県						○	90	鹿児島赤十字病院						○
47	沖縄県						○	91	沖縄赤十字病院						

※在学生が受給している奨学金がある場合に○を付している。

日本赤十字国際人道研究センターの動向

日本赤十字国際人道研究センター(英文名　Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies)は、日本赤十字学園が擁する6大学、1短期大学の教育研究の専門人材を活かした人道問題に関する学術的な拠点として、日本赤十字社の協力を得て、調査・研究事業等を実施することを目的に、平成23年4月、日本赤十字看護大学内に開設しました。

主な事業内容

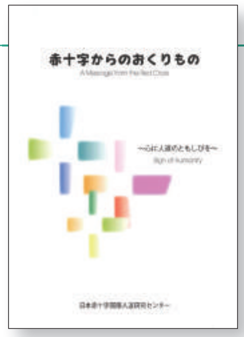
- 国際赤十字(日本赤十字社を含む)の歴史・史料に関する調査研究
- 国際赤十字の活動及び事業に関する調査研究
- 国際人道法の普及及び調査研究に必要な事業
- 国際赤十字関係機関・団体等との学術研究の連携・協力
- 看護大学・短期大学が行う調査研究の支援
- その他、理事長が必要と認めた調査研究等

平成28年度の研究活動

1 「人道研究ジャーナル」Vol.6の刊行

国際社会の人道問題等にスポットを当てた特集や核廃絶、人道支援、国際人道法、災害対応などに関する論文、評論等を多数掲載し、関係者から好評を得ました。

2 教育・啓発用資材の開発・製作



❶「赤十字からのおくりもの」の刊行

赤十字の基本原則や国際人道法の本質を分かりやすく解説した同冊子を8,000部作成し、多くの赤十字施設で研修等に活用されております。

❷「赤十字の基本原則の実践〜ソマリア赤新月社の事例」の刊行

基本原則が実際の活動でどう応用されているかを解説した同冊子を500部作成、赤十字施設に配布しました。

3 シンポジウムの開催

9月21日、日赤本社において、当センター川原由佳里研究員、梶山哲男日赤熊本県支部振興課長を発表者にシンポジウム「濃尾地震から125年〜今、考える震災救援と復興への道〜」を開催しました。また、その内容を「人道研究ジャーナル」Vol.6に掲載しました。

発表を行う研究員

4 日本赤十字社の歴史史料調査・収集・刊行

❶戦時救護看護婦への聞き取り調査

戦後から70年が経過した今、かつて戦時救護に携わった元日赤看護婦に対する聞き取り調査を行い、その内容を「人道研究ジャーナル」Vol.6に掲載しました。この活動には赤十字病院のほか、日本赤十字社看護師同方会の協力を頂きました。

❷看護教育等に関する歴史的映像資料の調査

米国公文書館にて関連文献を特に映像資料を中心に収集し、DVD化を進めました。

❸「日本赤十字看護大学所蔵　史料集第12巻」を刊行

制服・記章、救護材料等の史料を掲載し、関連施設に配布するとともに、既刊である9巻・10巻の普及版を作成、配布しました。

5 研究員の海外調査・研究活動

❶フィンランド赤十字への研究員の調査派遣

寒冷地での救護活動に関する知見を得るため、研究員2人をフィンランドに派遣し、調査研究、情報交流等を行いました。

❷オーストラリアでの赤十字学会に研究員派遣

アデレートで開催の同学会に客員研究員1人を派遣し、「赤十字災害救護の原則と規則の変遷」について発表を行いました。

❸国際会議への参加

サンレモ国際人道法円卓会議並びにジュネーブで開催のICRC(赤十字国際委員会)人道法セミナーに研究員1人を派遣しました。

❹防災対策・人道法普及教材の開発普及

台湾紅十字会の要請により、国際人道法普及教材開発指導等のために研究員1人を派遣しました。

フィンランド赤十字社ロジスティックセンターを視察

6 赤十字基本原則採択50周年記念エッセイコンテスト受賞者旅行の実施

平成27年度に実施した「赤十字基本原則採択50周年記念赤十字7原則エッセイコンテスト」の受賞者をスイス、イタリアに派遣し、センター所長等が同行しました。

地域貢献活動

地域貢献及び地域住民に開かれた大学の取り組みとして、保健、福祉、看護、介護、子育て、防災などに関する公開講座、講演会、シンポジウム、高大連携授業等を開催しています。

講座内容は多岐にわたり、平成28年度に開催された公開講座等は、各大学・短期大学合計115回開催し、地域住民等延べ7,429人が受講しました。

●各大学における公開講座、講演会、シンポジウム等の開催状況

大学	テーマ		受講対象	人数	実施月
日本赤十字北海道看護大学	公開講座	健活で、頭と体と心のリフレッシュ！	一般	157	H28年10月
	講演会	オホーツク医療圏の現在、そして未来	一般	59	H28年11月
		石巻医療圏における東日本大震災への対応と次への取り組み	一般	197	H28年 7月
	出前公開講座	寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	15	H28年 5月
		開発途上国における母子保健活動－モロッコでのボランティア経験より－	助産師	8	H28年 6月
		人と上手く付き合うコミュニケーション入門	一般	24	H28年 6月
		いのちを守るために必要な災害の知識	高校生	550	H28年 6月
		看護学とは	高校生	34	H28年 6月
		子どもの事故防止と救急手当て ～異物除去と胸骨圧迫のレベルアップ講座～（計3回）	保育士	19	H28年 7月
		いのちを守るために必要な災害の知識	一般	53	H28年 7月
		人と上手く付き合うコミュニケーション入門	一般	55	H28年 7月
		災害時のこころのケア	保護司等	47	H28年 7月
		子どもの事故防止と救急手当て ～異物除去と胸骨圧迫のレベルアップ講座～（計3回）	保育士	17	H28年 8月
		開発途上国における母子保健活動－モロッコでのボランティア経験より－	小学生～高校生	52	H28年 8月
		ちょっぴり体験しながら災害を学ぼう（避難所HUG北海道版）	女性消防団員	69	H28年 9月
		キャリア・カウンセリング－どうすればあなたのお役に立てますか？－	看護師・助産師・保健師	17	H28年 9月
		寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	40	H28年 9月
		「くすり」に関する基礎知識から最新のトピックスまで	一般	33	H28年 9月
		こころの健康－あなたのメンタルヘルスは大丈夫？－	一般	51	H28年10月
		認知症予防のための身体運動	一般	122	H28年10月
		災害図上訓練（DIG）	一般	38	H28年10月
		寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	128	H28年10月
		「くすり」に関する基礎知識から最新のトピックスまで・暴風雪被害から身を守るために	一般	52	H28年10月
		暴風雪被害から身を守るために	一般	15	H28年10月
		こころの健康－あなたのメンタルヘルスは大丈夫？－	生活支援者等	32	H28年11月
		寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	50	H28年11月
		暴風雪被害から身を守るために	一般	62	H28年11月
		いのちを守る～心の健康づくり～	一般	30	H28年11月
		こころの健康－あなたのメンタルヘルスは大丈夫？－	教頭	39	H28年11月
		災害時のこころのケア	高校生	21	H28年11月
		寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	7	H28年11月
		いのちを守るための必要な災害の知識	一般	22	H28年11月
		小児科医からの子育てアドバイス	一般	30	H28年11月
		いのちを守る～心の健康づくり～	高校生	56	H28年12月
		「くすり」に関する基礎知識から最新のトピックスまで	一般	23	H28年12月
		目から鱗の組織論・人と上手く付き合うコミュニケーション入門	看護師・助産師・保健師	24	H28年12月
		寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	73	H29年 1月
		感情労働者の健康	一般	47	H29年 1月
		障害者・高齢者の交通問題－移送サービスと民間救急車－	交通安全指導員	85	H29年 1月
		寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	51	H29年 1月
		薬物乱用を防ぐための基礎知識と最新のトピックス	保護司、保護観察官	50	H29年 2月
		アレルギーは増えている	一般	24	H29年 2月
		いのちを守る～心の健康づくり～	一般	29	H29年 2月
		寒冷地のいのちをまもるための知恵－寒冷地防災－	一般	25	H29年 2月
日本赤十字秋田看護大学	公開講座	「認知症の手がかりと対応について」	一般	41	H29年 3月
		「認知症サポーター養成講座」		65	H29年 3月
	高大連携	高校生のための基礎看護学「与薬　～安全、確実に行うために～」	高校生	137	H28年 7月
		高校生のための成人看護学「病とともに生きる人を支える」		137	H28年 7月
		高校生のための老年看護学「高齢者を知ろう」		137	H28年 7月
		高校生のための母性看護学「胎児および新生児の成長発達とその特徴」		137	H28年 7月
		高校生のための小児看護学「乳幼児の健康と安全」		137	H28年 7月
		高校生のための精神看護学「心の健康と精神看護」		137	H28年10月
		高校生のための公衆衛生看護学「地域で生活する人々の健康を守る」		137	H28年10月
		高校生のための成人看護学「その人らしく生きることを支える」		137	H28年10月
		高校生のための災害看護学「東日本大震災から災害看護学を学ぶ」		137	H28年10月
		赤十字と看護「日本赤十字社の活動と看護」		137	H28年10月

大学	テーマ		受講対象	人数	実施月
日本赤十字看護大学	公開講座	健康寿命をのばそう－からだと心を自分で守る 自分でできるセルフケア：糖尿病を予防する生活の工夫	一般	126	H28年 6月
		健康寿命をのばそう－からだと心を自分で守る 気軽にできる 呼吸からの健康づくり	一般	45	H28年 9月
		健康寿命をのばそう－からだと心を自分で守る メンタルヘルスと 感情労働 －心の疲れに気づくために－	一般	59	H28年10月
	シンポジウム	福祉国家スウェーデンの人と社会	教職員・学生	89	H28年 5月
		フロンティアセミナー	医療職者・一般	220	H28年10月
		認定看護師のためのスキルアップセミナー	認定看護師	291	H29年 2月
	講演会	「実践に活かせる看護研究方法」～臨床が変わるアクションリサーチ～	卒業生・修了生	28	H28年 6月
	講演会	災害マネジメントの課題 ～近年の巨大災害からの教訓～ （災害看護グローバルリーダー養成プログラム平成28年度国際セミナー）	一般・教職員・学生	130	H29年 2月
	高大連携	高校生向け公開授業（16科目）	高校生	32	H28年4～11月
	高大連携	大学訪問受入（広島県立呉宮原高校2年生）	高校生	10	H28年10月
	高大連携	大学訪問受入（北海道立倶知安高校2年生）	高校生	6	H28年11月
日本赤十字豊田看護大学	公開講座	シリーズ不妊を学ぶ	一般	6	H28年 6月
		シリーズ不妊を学ぶ	一般	14	H29年 2月
		身体のアライメントを整えよう	一般	12	H29年 3月
		認知症について	一般	12	H29年 3月
日本赤十字広島看護大学	公開講座	「脳卒中のケア」～予防・対応・心のケア～	一般	61	H28年10月
		「今だからこそ人道を考えよう」　第1回 人道思想の発祥	一般	22	H28年 6月
		「今だからこそ人道を考えよう」　第2回 いのちを救う「観察と手当」	一般	20	H28年 6月
		「今だからこそ人道を考えよう」　第3回 せいかつを支える「在宅介護のコツ」	一般	21	H28年 6月
		「今だからこそ人道を考えよう」　第4回 ひとを育む「被災地での自助・共助・公助の支援」	一般	21	H28年 6月
		阿品地区防災訓練救急法講習会	一般	80	H28年 7月
		はつかいち介護の日PRイベント～突然くる介護に備えよう！～	一般	64	H28年10月
		あいプラザ祭り　食事に関する展示と相談	一般	361	H28年11月
		第26回廿日市市生涯学習フェスティバル	一般	198	H28年11月
		育児応援プログラム　おひさまクラブ	一般	23	H28年11月
		いきいき健康づくり2016	一般	14	H29年 2月
		大学が取り組む思春期への性教育～養護教員との討論会～	養護教諭	11	H28年12月
		フィジカルアセスメント研修会　第1回 フィジカルアセスメント総論、呼吸器系	専門職	39	H28年 6月
		フィジカルアセスメント研修会　第2回 循環器系、心電図を活用したアセスメント		60	H28年 7月
		認定公開講座　「摂食嚥下障害とチームアプローチ」ほか	専門職	116	H28年 6月
		認定公開講座　「コミュニケーション能力と構音のアセスメント」		80	H28年 7月
		認定公開講座「高次脳機能障害と脳血管障害による摂食・嚥下障害と看護」 ～アセスメントと看護の実際～		157	H28年 7月
		認定公開講座　「小児における基礎訓練及び直接訓練の方法と適応」		88	H28年 8月
		看護リーダーのためのチーム作り研修会「チーム作りのためのコーチング」	専門職	26	H28年 6月
		看護リーダーのためのチーム作り研修会 「サンフレッチェに学ぶ人材育成と組織づくりの両立」		33	H29年 2月
		看護継続教育研修会 第1部「認知症の基礎知識：診断・治療・ケアと地域連携」 第2部「急性期医療の場における認知症の人のケア」	専門職	80	H28年 8月
	講演会	認知症サポーター養成講座	学生	101	H28年11月
		深部静脈血栓症（エコノミー症候群）	中学生	20	H28年 8月
		（1）手術室での看護師の役割 （2）看護師になるためには何を勉強しているの？－小児看護学の授業と実技を通して－	中学生	14	H28年 8月
	高大連携	思春期応援プログラム　おひさまクラブ　第1回「すこやかな高校生活を送るために」	高校生	40	H28年 7月
		思春期応援プログラム　おひさまクラブ　第1回「すこやかな高校生活を送るために」		40	H28年10月
		自分のキャリアを考えよう		10	H28年 5月
		災害について考えよう		39	H28年 6月
		シミュレーションセンターで看護体験しよう		10	H28年 7月
		演習の紹介(乳児モデル人形や小児用聴診器の体験)		31	H28年 9月
		看護のちから　看護とは？様々な場所で活動する看護職		28	H28年 9月
		看護師とは		23	H28年10月
		看護大学の種類。看護師の歴史		14	H28年11月
		安全においしく「食べる」を支える看護		63	H29年 3月
日本赤十字九州国際看護大学	公開講座	災害時にまもる「いのち」と「健康」	一般	30	H28年 7月
	シンポジウム	震源地宗像震度7 あなたにできること－情報が届きにくい方への支援を考える－	一般・教職員・学生	71	H28年11月
日本赤十字秋田短期大学	公開講座	認知症の手がかりと対応について	一般	41	H29年 3月
		認知症サポーター養成講座		65	H29年 3月
	高大連携	楽しみながら防災を学ぶことの大切さ ～赤十字みんなの防災キャンプの取り組みから～	高校生	13	H28年10月
		災害時に活用できるアウトドアスキル ～非常食作り、炊き出し経験～		13	H28年10月

リフレッシュのための簡単な体操を学ぶ受講者（北海道）

公開講座「認知症の手がかりと対応について」（秋田）

学校会計の決算状況を報告します

1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応する全ての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

① 資金収入の部

■**資金収入合計 14,768,192千円**（前年度比 739,726千円 増）

資金収入合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	平成28年度			平成27年度	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異	決算額	増減額	増減率(%)
学生生徒等納付金収入	5,361,998	5,341,242	20,755	5,306,024	35,218	0.7
手数料収入	119,661	118,718	942	105,433	❶ 13,285	12.6
寄付金収入	70,554	78,832	△8,278	213,031	❷ △134,199	△63.0
補助金収入	974,868	975,050	△182	1,005,292	❸ △30,242	△3.0
資産売却収入	4,000	601,020	△597,020	156,120	❹ 444,900	285.0
付随事業・収益事業収入	97,546	89,258	8,287	101,927	❺ △12,669	△12.4
受取利息・配当金収入	146,712	128,307	18,404	143,425	△15,118	△10.5
雑収入	57,946	55,205	2,740	72,383	△17,178	△23.7
借入金等収入	0	0	0	0	0	—
前受金収入	597,810	637,705	△39,895	614,610	23,095	3.8
その他の収入	1,228,477	1,660,745	△432,268	1,246,711	414,034	33.2
資金収入調整勘定	△619,033	△671,505	52,472	△691,459	19,954	△2.9
前年度繰越支払資金	5,753,609	5,753,612	—	5,754,965	△1,353	△0.0
合　計	13,794,148	14,768,192	△974,044	14,028,466	739,726	5.3

※千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

❶手数料収入　前年度比13,285千円 増

➡前年度と比較し、日本赤十字看護大学、豊田看護大学における入学検定料増加等の影響により、**増額**となりました。

❷寄付金収入　前年度比134,199千円 減

➡日本赤十字看護大学30周年記念事業のための寄付募集（継続）を行いましたが、一方で同大学にて前年度計上した大口寄付金の減少等の影響により、**減額**となりました。

❸補助金収入　前年度比30,242千円 減

➡秋田看護大学及び秋田短期大学における秋田県からの補助金減少等の影響により、**減額**となりました。

❹資産売却収入　前年度比444,900千円 増

➡満期に伴う有価証券売却収入の増加等の影響により、**増額**となりました。

❺付随事業・収益事業収入　前年度比12,669千円 減

➡秋田短期大学における職業訓練の受託事業受講者減少等の影響により、**減額**となりました。

② 資金支出の部

■**資金支出合計 14,768,192千円**（前年度比 739,726千円 増）

資金支出合計は**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	平成28年度			平成27年度	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異	決算額	増減額	増減率(%)
人件費支出	4,186,568	4,071,750	114,817	3,797,519	❶ 274,231	7.2
教育研究経費支出	1,762,029	1,560,668	201,360	1,351,849	❷ 208,819	15.4
管理経費支出	362,031	354,005	8,025	362,715	❸ △8,710	△2.4
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	—
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	—
施設関係支出	15,701	24,421	△8,720	42,163	❹ △17,742	△42.1
設備関係支出	173,036	184,594	△11,558	123,454	❺ 61,140	49.5
資産運用支出	1,582,412	1,507,966	74,445	1,373,319	❻ 134,647	9.8
その他の支出	1,494,306	1,509,891	△15,585	1,568,786	△58,895	△3.8
予備費	3,100	—	3,100	—	—	—
資金支出調整勘定	△378,340	△582,864	204,524	△344,955	△237,909	69.0
翌年度繰越支払資金	4,593,305	6,137,758	△1,544,453	5,753,612	❼ 384,146	6.7
合　計	13,794,148	14,768,192	△974,044	14,028,466	739,726	5.3

※千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

❶人件費支出　前年度比274,231千円 増

➡法人本部における職員人件費支出の増加や、日本赤十字看護大学・北海道看護大学・秋田看護大学・九州国際看護大学における退職金支出の増加等の影響により、**増額**となりました。

❷教育研究経費支出　前年度比208,819千円 増

➡豊田看護大学における燃料電池オーバーホールや、広島看護大学における教育棟外壁修繕による修繕費の増加等の影響により、**増額**となりました。

❸管理経費支出　前年度比8,710千円 減

➡日本赤十字看護大学における武蔵野キャンパス機能の縮小にかかる物品処分費用、九州国際看護大学における学内備品整備等がある一方で、前年度実施した広島看護大学における講堂・管理棟修繕費の減少等の影響により、**減額**となりました。

❹施設関係支出　前年度比17,742千円 減

➡前年度実施した九州国際看護大学におけるラーニングコモンズ整備に係る建物改修による減少等の影響により、**減額**となりました。

❺設備関係支出　前年度比61,140千円 増

➡前年度実施した豊田看護大学におけるスクールバスリース契約に伴う車両計上による減少がある一方、九州国際看護大学におけるCALLシステム等国庫補助金事業による増加等の影響により、**増額**となりました。

❻資産運用支出　前年度比134,647千円 増

➡教育環境維持向上基金に係る第3号基本金引当資産への繰入を引き続き実施し、施設設備整備引当特定資産へ繰入支出の増加等の影響により、**増額**となりました。

❼翌年度繰越支払資金　前年度比384,146千円 増

➡翌年度繰越支払資金（現預金）は、**増額**となりました。

2 事業活動収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」、資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容や、基本金組入額、基本金取崩額等を含め、事業収支の均衡状態を示すものです。

（単位：千円）

科目			平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成28年度 差異	平成27年度 決算額	対前年度比較 増減額	対前年度比較 増減率(%)
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,361,998	5,341,242	20,755	5,306,024	35,218	0.7
		手数料	119,661	118,718	942	105,433	❶ **13,285**	12.6
		寄付金	72,219	77,502	△5,283	213,956	❷ **△136,454**	△63.8
		経常費等補助金	941,351	941,533	△182	970,000	❸ **△28,467**	△2.9
		付随事業収入	97,546	89,258	8,287	102,427	❹ **△13,169**	△12.9
		雑収入	57,946	55,119	2,826	72,741	△17,622	△24.2
		計	6,650,721	6,623,373	27,347	6,770,583	△147,210	△2.2
	事業活動支出の部	人件費	4,218,672	4,080,546	138,125	3,893,219	187,327	4.8
		教育研究経費	2,534,966	2,299,704	235,261	2,252,363	47,341	2.1
		管理経費	546,696	528,602	18,093	395,789	❻ **132,813**	33.6
		徴収不能額等	0	600	△600	250	350	140.0
		計	7,300,334	6,909,454	390,879	6,541,621	367,833	5.6
	教育活動収支差額		△649,613	△286,080	△363,532	228,961	△515,041	△224.9
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	146,712	128,307	18,404	143,425	△15,118	△10.5
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	—
		計	146,712	128,307	18,404	143,425	△15,118	△10.5
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0	—
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	—
		計	0	0	0	0	0	—
	教育活動外収支差額		146,712	128,307	18,404	143,425	△15,118	△10.5
経常収支差額			△502,901	△157,772	△345,128	372,387	△530,159	△142.4
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	4,000	295	3,704	0	295	—
		その他の特別収入	33,517	43,025	△9,508	281,332	❺ **△238,307**	—
		計	37,517	43,321	△5,804	281,332	△238,011	△84.6
	事業活動支出の部	資産処分差額	524,395	536,838	△12,443	8,335	❼ **528,503**	6,340.8
		その他の特別支出	500	4,563	△4,063	2,561	2,002	—
		計	524,895	541,401	△16,506	10,896	530,505	4,868.8
	特別収支差額		△487,378	△498,080	10,702	270,435	△768,515	△284.2
予備費			3,100	—	3,100	—	—	—
基本金組入前当年度収支差額			△993,379	△655,852	△337,526	642,822	△1,298,674	△202.0
基本金組入額合計			△423,419	△398,397	△25,021	△630,791	232,394	△36.8
当年度収支差額			△1,416,798	△1,054,249	△362,548	12,031	△1,066,280	△8,862.8
前年度繰越収支差額			2,727,901	2,727,903	△2	2,712,487	15,416	0.6
基本金取崩額			1,391,000	72,000	1,319,000	3,384	68,616	2,027.7
翌年度繰越収支差額			2,702,103	1,745,653	956,449	2,727,903	△982,250	△36.0
参考	事業活動収入計		6,834,950	6,795,003	39,946	7,195,341	△400,338	△5.6
	事業活動支出計		7,828,329	7,450,855	377,473	6,552,518	898,337	13.7

※千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

1 事業活動収入の部

❶手数料 前年度比**13,285**千円 増

➡前年度と比較し、日本赤十字看護大学、豊田看護大学における入学検定料増加等の影響により、**増額**となりました。

❷寄付金 前年度比**136,454**千円 減

➡日本赤十字看護大学30周年記念事業のための寄付募集（継続）を行いましたが、一方で同大学にて前年度計上した大口寄付金の減少等の影響により、**減額**となりました。

❸経常費等補助金 前年度比**28,467**千円 減

➡秋田看護大学及び秋田短期大学における秋田県からの補助金減少等の影響により、**減額**となりました。

❹付随事業収入 前年度比**13,169**千円 減

➡秋田短期大学における職業訓練の受託事業受講者減少等の影響により、**減額**となりました。

❺その他の特別収入 前年度比**238,307**千円 減

➡前年度計上した九州国際看護大学における日本赤十字社（福岡県支部）からのオーバルホール（講堂棟）無償譲受に伴う現物寄付計上等の影響により、**減額**となりました。

2 事業活動支出の部

❻管理経費 前年度比**132,813**千円 増

➡前年度実施した広島看護大学における講堂・管理棟修繕費の減少等がある一方、日本赤十字看護大学における武蔵野キャンパス機能の縮小にかかる土地返還及び物品処分費用、九州国際看護大学における学内備品整備等の影響により、**増額**となりました。

❼資産処分差額 前年度比**528,503**千円 増

➡日本赤十字看護大学における武蔵野キャンパス機能の縮小にかかる建物等固定資産処分に伴う費用計上等の影響により、**増額**となりました。

3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、事業活動収入から組み入れた金額です。
また、基本金全体としては、398,397千円を組み入れ、72,000千円を取り崩しています。

（参考）基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、当年度は98,397千円を組み入れました。なお、当年度に日本赤十字看護大学における武蔵野キャンパス機能の縮小に伴う基本金の取り崩しを予定していましたが、さいたま新学部設置計画に伴い、取り崩し額を上回る基本金組み入れが発生する予定であることから、今般、基本金の取り崩しの繰り延べを行いました。
- 第2号基本金は、将来の施設設備を取得するために計画的に組み入れを行うものであります。なお、当学園では現在組み入れはありません。
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、当年度は教育環境維持向上基金へ300,000千円を組み入れました。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のための設定であり、当年度72,000千円を取り崩しました。

3 貸借対照表

資産の部、負債の部及び純資産の部の科目ごとに、当該会計年度末の額を前年度会計年度末の額と比較して、当該会計年度末の財産の状況を表すものです。

① 資産の部

（単位：千円）

科目		平成28年度末	平成27年度末	増減
資産の部	固定資産	43,057,370	43,798,268	△ 740,898
	有形固定資産	22,966,464	24,180,755	❶ △ 1,214,291
	特定資産	20,020,170	18,922,367	❷ 1,097,803
	その他の固定資産	70,735	695,145	❸ △ 624,410
	流動資産	6,204,679	5,842,367	❹ 362,312
	資産の部合計	49,262,049	49,640,635	△ 378,586

※千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

■資産の部

❶有形固定資産 前年度比**1,214,291**千円 減

➡減価償却額の減少に加え、日本赤十字看護大学における土地の譲り渡しや建物等有形固定資産処分等の影響により、有形固定資産は大幅に**減少**しました。

❷特定資産 前年度比**1,097,803**千円 増

➡将来の建替え等に使用する施設設備整備引当特定資産が増加となり、併せて第３号基本金引当特定資産等も**増加**しました。

❸その他の固定資産 前年度比**624,410**千円 減

➡有価証券満期到来等により大幅に**減少**しました。

❹流動資産 前年度比**362,312**千円 増

➡有価証券満期到来の影響もあり、現金預金等が**増加**しました。

② 負債・純資産の部

（単位：千円）

科目		平成28年度末	平成27年度末	増減
負債の部	固定負債	1,604,129	1,616,968	❶ △ 12,839
	流動負債	1,347,132	1,057,027	❷ 290,105
	負債の部合計	2,951,262	2,673,996	277,266
純資産の部	基本金	44,565,133	44,238,736	❸ 326,397
	繰越収支差額	1,745,653	2,727,903	❹ △ 982,250
	純資産の部合計	46,310,787	46,966,639	△ 655,852
負債及び純資産の部合計		49,262,049	49,640,635	△ 378,586

※千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

■負債の部

❶固定負債 前年度比**12,839**千円 減

➡リース料の長期未払金等の影響により、**減少**しました。

❷流動負債 前年度比**290,105**千円 増

➡年度末計上した退職金等未払金の増加の影響により、**増加**しました。

■純資産の部

❸基本金 前年度比**326,397**千円 増

➡日本赤十字看護大学における基本金の取り崩しの繰り延べを行い、固定資産取得による組み入れを行ったため、第1号基本金は**増加**しました。
教育環境維持向上基金への組み入れを計画的に実施したため、第3号基本金は**増加**しました。
恒常的な資金の維持として計上した資金が減少し、取り崩しを行ったため、第4号基本金は**減少**しました。

❹繰越収支差額 前年度比**982,250**千円 減

➡日本赤十字看護大学における武蔵野キャンパス機能の縮小に伴う固定資産処分及び、第１号基本金の取り崩しの繰り延べの影響等により、大幅に**減少**しました。

人道の理念に基づき、日本の看護・介護福祉 を支える多くの人材を育てています。

学園の沿革

平成29年3月31日　現在

明治10年（1877年）	博愛社を設立
明治20年（1887年）	博愛社から日本赤十字社に改称
明治23年（1890年）	日本赤十字社看護婦養成所を設立
昭和21年（1946年）	日本赤十字女子専門学校に昇格
	財団法人日本赤十字女子専門学校を設立
昭和29年（1954年）	財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組
	日本赤十字女子短期大学を設立
昭和41年（1966年）	学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称
	日本赤十字女子短期大学を中央女子短期大学に改称
	日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設
昭和61年（1986年）	日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設
昭和63年（1988年）	日本赤十字中央女子短期大学を閉校
平成元年（1989年）	日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設
平成5年（1993年）	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成7年（1995年）	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設
平成8年（1996年）	日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設
平成9年（1997年）	日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称
	日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称
平成11年（1999年）	日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設
平成12年（2000年）	日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設
平成13年（2001年）	日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設
平成15年（2003年）	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成16年（2004年）	日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設
	日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成17年（2005年）	日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合
平成18年（2006年）	日本赤十字愛知短期大学を閉校
平成19年（2007年）	日本赤十字武蔵野短期大学を閉校
	日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成21年（2009年）	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設
平成22年（2010年）	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成23年（2011年）	日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉科
平成26年（2014年）	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設（国公私立5大学の共同教育課程）
	日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成28年（2016年）	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設（赤十字5大学の共同教育課程）

学園の組織

平成29年3月31日　現在

- 理事会
- 常務理事会
- 理事長
- 評議員会
- 監事

- 法人本部事務局 — 日本赤十字国際人道研究センター
- 日本赤十字北海道看護大学
  - 大学院 — 看護学研究科 — 共同看護学専攻(博士課程後期) / 看護学専攻(修士課程)
  - 学部 — 看護学部看護学科
- 日本赤十字秋田看護大学
  - 大学院 — 看護学研究科 — 共同看護学専攻(博士課程後期) / 看護学専攻(修士課程)
  - 学部 — 看護学部看護学科
- 日本赤十字看護大学
  - 大学院 — 看護学研究科 — 共同災害看護学専攻(一貫制博士課程) / 看護学専攻(博士課程後期) / 国際保健助産学専攻(修士課程) / 看護学専攻(修士課程)
  - 学部 — 看護学部看護学科
- 日本赤十字豊田看護大学
  - 大学院 — 看護学研究科 — 共同看護学専攻(博士課程後期) / 看護学専攻(修士課程)
  - 学部 — 看護学部看護学科
- 日本赤十字広島看護大学
  - 大学院 — 看護学研究科 — 共同看護学専攻(博士課程後期) / 看護学専攻(修士課程)
  - 学部 — 看護学部看護学科
- 日本赤十字九州国際看護大学
  - 大学院 — 看護学研究科 — 共同看護学専攻(博士課程後期) / 看護学専攻(修士課程)
  - 学部 — 看護学部看護学科
- 日本赤十字秋田短期大学 — 介護福祉学科

教職員の概要

平成28年5月1日現在

（単位：人）

教授	准教授	講師	助教	助手	事務職	常勤教職員合計
99	58	56	67	35	141	456

役員・評議員一覧（平成29年3月31日現在）

■理事（13名）

理事長	大塚 義治	平成17年4月就任	日本赤十字社 副社長
常務理事	富田 博樹	平成24年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
	小森 和子	平成25年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
	河口 てる子	平成27年4月就任	日本赤十字北海道看護大学 学長
	野口 良樹	平成27年4月就任	学校法人日本赤十字学園法人本部 事務局長
理事	高田 早苗	平成27年4月就任	日本赤十字看護大学 学長
	小山 眞理子	平成28年4月就任	日本赤十字広島看護大学 学長
	高橋 高美	平成27年4月就任	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事
	中川原 米俊	平成26年11月就任	日本赤十字社代表支部事務局長会 会長 （日本赤十字社東京都支部事務局長）
	吉田 元治	平成25年5月就任	日本赤十字社 参与 （株式会社日赤サービス代表取締役社長）
	井部 俊子	平成18年4月就任	学校法人聖路加国際大学 特任教授
	上杉 道世	平成22年4月就任	学校法人大正大学 理事長特別補佐・質保証推進室長
	木曽　功	平成26年4月就任	学校法人加計学園 千葉科学大学 学長

■監事（2名）

監事	堀野 政則	平成24年4月就任	日本赤十字社 参与
	山田 幸太郎	平成25年4月就任	山田公認会計士事務所 代表

■評議員（27名）

安藤 広子	日本赤十字秋田看護大学・短期大学 学長
江口 祐司	日本赤十字九州国際看護大学 事務局長
鎌倉 やよい	日本赤十字豊田看護大学 学長
田村 やよひ	日本赤十字九州国際看護大学 学長
野口 良樹	学校法人日本赤十字学園法人本部 事務局長
藤井 博英	日本赤十字秋田看護大学 研究科長
山勢 善江	日本赤十字九州国際看護大学 看護学部長
石渡 祥子	成田赤十字病院 副院長兼看護部長
稲岡 文昭	日本赤十字広島看護大学 名誉学長
高島 和歌子	学校法人華苑学園熊本看護専門学校 副学校長
高橋 高美	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事
竹内 幸枝	日本赤十字看護大学同窓会 会長
中村 美知子	国立大学法人山梨大学 名誉教授
光峰 常美	公益社団法人愛媛県看護協会 専務理事
大塚 義治	日本赤十字社 副社長
片岡 笑美子	赤十字医療施設看護部長会 会長（名古屋第二赤十字病院副院長）
加藤 誠	日本赤十字社病院長連盟 会長（成田赤十字病院院長）
小森 和子	日本赤十字社医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
富田 博樹	日本赤十字社医療事業推進本部 本部長
中川原 米俊	日本赤十字社代表支部事務局長会 会長（日本赤十字社東京都支部 事務局長）
大給 乗龍	日本赤十字社 参与（株式会社日赤振興会代表取締役社長）
梶本 章	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 兼任講師
木曽 功	学校法人加計学園千葉科学大学 学長
島崎 謙治	国立大学法人政策研究大学院大学 教授
鈴木 隆雄	桜美林大学老年学総合研究所 所長 （国立長寿医療研究センター研究所総長特任補佐）
古橋 美智子	公益社団法人日本看護協会 監事
吉田 元治	日本赤十字社 参与（株式会社日赤サービス 代表取締役社長）

理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

理事会	第1回 平成28年5月25日	第2回 平成28年12月5日	第3回 平成29年3月22日
常務理事会	第1回 平成28年4月11日 第4回 平成28年9月5日 第7回 平成28年12月19日 第10回 平成29年3月6日	第2回 平成28年5月16日 第5回 平成28年10月17日 第8回 平成29年1月10日	第3回 平成28年7月11日 第6回 平成28年11月7日 第9回 平成29年2月6日
評議員会	第1回 平成28年5月25日	第2回 平成28年12月5日	第3回 平成29年3月22日

各大学・短期大学の施設概要

日本赤十字 北海道看護大学

［住所］北海道北見市曙町664-1
［電話］0157-66-3311　［URL］http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/
［施設面積］校地：59,797m²／校舎等：16,993m²

日本赤十字 秋田看護大学・短期大学

［住所］秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
［電話］018-829-4000　［URL］http://www.rcakita.ac.jp/
［施設面積］校地：43,599m²／校舎等：13,771m²

日本赤十字 看護大学

［住所］東京都渋谷区広尾4-1-3
［電話］03-3409-0875　［URL］https://www.redcross.ac.jp/
［施設面積］校地：18,216m²／校舎等：15,695m²

日本赤十字 豊田看護大学

［住所］愛知県豊田市白山町七曲12-33
［電話］0565-36-5111　［URL］http://www.rctoyota.ac.jp/
［施設面積］校地：19,710m²／校舎等：17,954m²

日本赤十字 広島看護大学

［住所］広島県廿日市市阿品台東1-2
［電話］0829-20-2800　［URL］http://www.jrchcn.ac.jp/
［施設面積］校地：29,882m²／校舎等：19,438m²

日本赤十字 九州国際看護大学

［住所］福岡県宗像市アスティ1-1
［電話］0940-35-7001　［URL］http://www.jrckicn.ac.jp/
［施設面積］校地：34,456m²／校舎等：15,097m²